



のびのび育つ...笑顔の園庭

園庭のリニューアルが終わりました。中心には子ども達を見守るシンボルツリー！ 小さなウッドハウスや色とりどりの花が咲き、季節ごとの変化も感じられます。虫探しや草花との触れ合いを通じて、五感を使った遊びや小さな発見が広がります。

新たに遊具も一台プラス（7日搬入予定）され、走る跳ぶ転がるのはもちろん、登る・くぐる・ぶら下がる・滑るなどの幼児期に必要な基本動作もたっぷりと経験できます。全身で遊ぶことで、バランス感覚や体感もしっかり育まれます。

さらに、暑い夏の日に子ども達が快適に遊べるように、年少児クラスの軒下には「ミスト噴霧器」を設置！ 細かな水の粒がふわっと空気に広がり気温を和らげてくれます（笑）安心してのびのびと夏の園生活を楽しめるよう、暑さ対策もしっかり整えています。

★★★重要★★★

2号認定・新2号認定、並びにつぼみぐみのお子さんで、夏休み期間中に預かり保育を利用をされる方にお知らせです。

夏休み期間中に預かり保育を利用される方は、**利用日と利用時間を7月17日（木）**までに事務長藤田宛にCODOMONでお知らせ下さい。教員の配置を調整しなければならないのでよろしくお願いします。

新2号認定とつぼみぐみで預かり保育を利用される方で、**8月1ヶ月預かり保育**を利用される方の**8月分の利用料金は13,500円**になります。また、期間中の給食提供を希望される方は7月14日（月）までにお知らせ下さい。代金（440円×日数）は**7月17日（木）**までに納めて下さい。

= 休園協力依頼 =

8月13日（水）・14日（木）・15日（金）の休園協力依頼です。原則、新2号認定とつぼみぐみのおさんはこの期間の預かり保育の利用はできませんのでご留意下さい。この期間に家庭内保育が可能なお家庭は利用を控えて下さいますようお願い申し上げます。預かり保育が必要な方は、事前にご相談下さい。なお、この3日間の給食の提供はありません。お盆期間の休園にご協力をお願い申し上げます。



◆◆◆園の魅力が満載◆◆◆

この度、ホームページをリニューアルしました！ 園の魅力や白ゆりっ子達の活動の様子がわかりやすく伝わる内容になっています。また、教育方針・特色ある活動・入園のご案内など、これから幼稚園選びをされる未就園児の保護者の方に必要な情報も充実しています。お知り合いの中で、未就園のおさんのいる方がいらっしゃいましたらぜひ、新しいホームページをご紹介下さい。皆さんの温かいご協力をお願い申し上げます。

働きやすさと育てやすさの両立～ドイツに学ぶ社会のかたち～

ドイツ・デンマーク10日間の視察研修からの気付きを紹介させていただきます。ただし、あくまでも私見ですのでご承知おき下さい。

ドイツ視察では、BMWやStart2社、ミュンヘン工科大学の研究施設など、ドイツを代表する企業・研究所を訪問させていただきました。その先でドイツの教育・子育て環境について多くの方々にヒアリングをさせていただきました。まず、ドイツは「短く働いて高く稼ぐ国」として有名ですね。ドイツ人の年間平均労働時間は1,350時間。一方、日本人は1,640時間。日本より300時間も少ない労働で、世界第3位の生産力のある仕組みを築いています。

なぜ短く働いて高い成果を上げられるのか？！ 大きな理由の一つは「長く働くこと」ではなく「効率よく成果を出す」という文化です。仕事の時間と家庭（プライベート）の時間のメリハリが社会全体に浸透しているのです。こうした働き方を支える背景に「家族と過ごす時間を何より大切にしたい」という共通の価値観があり、特に子育てに対する国や社会の支援が手厚く、最大3年間の育児休暇、児童手当も日本よりもはるかに手厚く、「パパの育児」も当たり前になっているそうです。

さらに、ドイツでは「子どもは社会の宝」という意識が広く共有されていて、経済的な支援も日本のそれよりもるかに充実しています。また、保育スタイルも「子どもはまず家庭で育つべき！」という文化的な配慮があり、園で子どもが過ごす時間が過度な負担にならないように、家庭での「自分の時間」「親との触れ合いの時間」も大切にされているそうです。共働きや一人親世帯への理解も進んでいて長時間保育を選ぶ家庭も増えてきていますが、長くて8時間が一般的なようです。「子どもは家庭で育つべき！」という文化を、国や社会が経済的な支援を含めて後押ししてくれている証ですね。「10時間以上の保育が当たり前」の日本とは制度や文化の間に溝がある印象を持ちました。

教育環境にも日本と大きな違いがあります。ドイツにはいわゆる学習塾や予備校が存在しません。その理由は、教育制度そのものにあり、ドイツでは10歳前後で「ギムナジウム（進学型）」「リアルシューレ（実務型）」「パワブトシューレ（基礎型）」といった進路に分かれます。この時点で子どもの進路がある程度決まってしまうのです。そのため9歳頃までの教育は「親の責任」という意識が高く、家庭教育の重要性が高く位置付けられています。基本的な生活習慣や躾は「人としての土台」とされ、幼稚園や学校以上に家庭で育まれることが重視されているのです。

こうしてみると、ドイツでは「働き過ぎずに成果を出し、さらにしっかりと子育てができる！」という社会が、国の制度と価値観の両方に支えられていることがわかりますね。

一方で日本は… 次号につづく